

令和 4 年度 墨田区立 学校 経営報告書

令和 5 年 3 月 2 4 日

学 校 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで学ぶ子 <学びを大切に> ・なかよく助け合う子 <友達を大切に> ・心も体もすこやかな子 <健康を大切に>
目 指 す 学 校 像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人に寄り添い、笑顔が一層あふれる温かい学校 ・児童が確かな学力を身に付け、豊かな心を育む学校 ・組織の力を活用し、教員が互いに協力し合い高め合う学校 ・地域を大切にし、地域と連携してともに歩む学校
目 指 す 子 供 像	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさを感じ主体的に学習する子 ・よく考えて行動できる子 ・いたわり合い、思いやる心豊かな子 ・心も体も健康で、生き生きと活動する子
目 指 す 教 師 像	<ul style="list-style-type: none"> ・愛情をもって子どもと関わり、温かくも厳しく指導する教師 ・向上心を常にもち、自己研鑽に努める教師 ・教職員として自覚と使命をもち、保護者や地域から信頼される温かい教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を翌日のミニテストに結び付け、既習内容の定着を図る等、各学年で取り組んだ。問題解決型の授業展開やICT機器を活用した見やすく分かりやすい、意欲を喚起する授業の開発にさらに努める。 ・習熟度別の算数学習における発展的な課題の開発を進める 	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員配置等、学級の申請を受け組織的に実施している。支援の記録を基に、内容についても向上させていく。 ・特別支援委員会で検討した支援について教職員で共通理解している。組織的な支援体制の構築が必要である。 ・関係諸機関と連携し、支援にあたっている。コロナ禍の中、さらなる連携が不可欠である。 	A	A
	学校は、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校と連携した学校体験や学校紹介の方法について、ICTのさらなる活用を検討する。 ・外部講師を招いての活動は各学年で行い、全学年での授業はリモートで行った。ICT活用環境の整備に努める。 	B	A
	学校は、教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上のために、模擬授業や模範授業などを通して授業改善OJTを行う。課題解決型学習を単元中に数回行う。 ・オンライン授業について曳舟独自の方法で対応している。 	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> ・評価しにくい（評価欄に記入せず） ・学内の風土は良かったと思う。 ・特別な支援については支援学級がないため評価は困難だ。 ・地域内の中学校への進学が少ないと思う。 ・保護者アンケートでは、ひきふね図書館利用が少ないように思う。 		

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の情報共有会議を通して児童の実態を理解し、児童の抱える悩みや背景も考慮した支援方法の共通理解を図る。 特別支援教室専門員やスクールカウンセラー、外部機関との連携を深めるとともに、どの問題にも組織で対応する 	A	A
	学校は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動や異学年交流を通し、相手を思いやる望ましい人間関係作りの素地を培う。 生活の決まりを見直し、徹底しやすい内容とする。生活習慣の向上を図る。SNS 曳舟ルールの徹底を図る。 全校朝会時の校長講話を活用し、いじめ防止に関する講話を月に1回以上行い、HP等で家庭にも知らせる。 	B	A
	学校は、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> 不審者侵入訓練、水害を想定した訓練など現実的、効果的な避難訓練を取り入れる。 工事が続く中、児童の活動場所確保に努める。 	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止等、頑張ってもらいたい。 評価しにくい（評価欄に記入せず） 情報が不足しているので、さらに情報がほしい。 工事が続くので、安全面に問題があることは理解できる。 生活指導の内容が見えづらい。 			
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員に学校経営目標に応じた達成目標を設定させ、実践させることで職務能力の向上を図る。 学校力を高めるため、課題解決には組織（ファミリー）で当たり、職員の能力を最大限に引き出し、対応する。 	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学級の実態に即した学級目標を教育目標に照らして作成するとともに、年間2回、目標達成に向けた振り返りを行う。 各授業や行事ごとに目標に対する評価を行う。 	B	A
	学校には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を効果的に活用するため、GIGA支援員を活用する。機器の整備についても役割を明確にし、対応する。 生活指導部や担任が安全点検を毎月行うだけでなく、課題点を教職員で共有し改善に当たる。 	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 評価しにくい（評価欄に記入せず） a 学校、校長の判断に従う。 環境や設備については都・区などとの関連もある。 			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや、ホームページで学校の情報を迅速に発信するとともに、教育活動の様子なども定期的に発信する。 保護者会において学級や学年の様子を具体的に伝えるためにもICT機器等の活用をしていく。 	B	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習の中で地域人材や地域施設の活用を図る 地域あいさつ運動、おはなし会、学校図書館ボランティアを通して、保護者や地域の方々の協力を得る。 	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 評価しにくい（評価欄に記入せず） この評価の仕様を変更した方が良い。 コロナ禍、長期の工事を終了させたことが評価できる。 家庭・地域連携にできるだけ協力したい。 コロナ禍でやむを得ない点あり。 情報量が少なく、正確な評価はできない。 地域連携の中心になってほしい。 			

様式 4

2 令和4年度学校評価のまとめ

今年度の学校評価は、昨年と同等の評価であるが「保護者や地域の理解や『協力を得た教育活動を行っている』項目の改善策で、昨年度のA評価から下がっている。また、アンケート結果を受けて「ひきふね図書館の利用が少ないようだ」との意見が出た。関連機関との連携や、保護者・地域の方々との協力体制の構築など、さらなる工夫が必要である。

さらに、「問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいる」項目では、自己評価は前年度と変わらないものの、A評価をいただいた。コロナ禍、校庭の縮小、校舎内の改修と多くの制限の中で、児童の負担も大きかったと考える。改修工事は一段落だが、引き続き、安全を最優先しながら、教育活動のさらなる工夫を行っていく。また、学校だよりやHPを利用した学校からの発信について、より具体的な情報を求める声が、昨年が続いて多く見られた。保護者との信頼関係を強くするためにも、学校は伝えるべき情報を、適時、具体的に発信し、理解を求めていくことが大切である。

以上の通り報告いたします。

墨田区立曳舟小学校校長 吉岡大司 公印